

## 第2回 令和プロテクト・トーク「消防関係機関と市長の対話」

要約

日 時：令和6年1月30日（火） 18：00～19：15

場 所：消防局2階多目的ホール

出席者：消防関係4機関（20名）

- 薩摩川内市市：田中市長・上戸市民安全部長・遠矢市民安全部次長
- 薩摩川内市消防局：石原消防局長・濱田警防課長・前田消防総務課長・事務局2名
- 薩摩川内市消防団：小牧消防団長・宮里団本部副団長・石塚中央大隊長  
山本西部大隊長・西東部大隊長・平嶺上甌大隊長・下野下甌大隊長  
山ノ内団本部本部員・中満活動活性化等委員長
- 消防後援会連合会：下園会長・加治屋副会長・外菌事務局長

### ■あいさつ 田中市長

1月1日の能登半島地震については、まだ復旧道半ばではあるが、大変な震災であったと痛感している。このような危機的な震災では、コミュニティと併せて常備、非常備消防組織は必要不可欠であるという思いを強くした。

消防団員確保については大きな命題で全国的なことである。薩摩川内市は県平均より充足率は高い方であるが、団員は減少傾向にあり、引き続き加入確保をしていかなければならない。

人口減少が続き、マンパワーの確保は難しいが、絶えず議論していかなければならない。

今後も、この貴重なプロテクト・トークという情報共有と、意見交換の場を作るので、本音で持続可能な消防団組織の活性化に向けて議論していきたいと考える。

### ■協議 座長：田中市長

#### 1 第1回RPT後の各機関の取り組み等について

第1回RPT以後において、各機関が取り組んだ事項について報告。

※消防局・消防団は各分団部の聴き取り調査を実施するなど、各機関の取組について報告。

#### 2 組織再編に向けた各分団部の聴き取り調査について

昨年実施した聴き取り調査について、地域に若者がいないこと、10年後の定数確保や維持が困難なこと、活動に対する団員の参加状況など調査結果を報告。

#### 3 聴き取り調査結果を受けての消防団組織再編計画等について

聴き取り調査結果を踏まえた組織再編（定数の考え方）の草案について説明し、これについて検討した。出された主な意見は以下のとおり。

##### 参加者から出された意見

- (1) 隣接部との統合と出場部分の初動体制強化は関連性がある。昼間の出場について隣接分団部の応援をもらわないと非常に厳しい状況であるので、出場区分の見直しは大事だと考える。
- (2) 10年後、定数を確保、維持できるのかと考えた時に、これ以上は無理となれば、定数は草案より下がることは考えられる。また、その定数すら確保できなくなった場合には、隣接部と一緒に人数で考えなければならない。

- (3) 火災、風水害が少ない中で、団員の危機感が薄くなっていると感じる。いざ行動ができるかという部分を考えると、安易に定数を減らすのも難しいと思うが、十分検討していかなければならない。
- (4) 甌地域では住宅密集地があり、現場到着まで10～15分が勝負である。甌島は常備消防がないので消防団が第1線で活動している。地域にいる消防力なるような人達の掘り起こし検討していただきたい。
- (5) 団員の生の声を聞く限り、団員の中にも温度差があり、定期点検も同じ人が出るなど偏りがみられる。そういった部分も改善の必要があると感じた。
- (6) 今回の聴き取りで地元団員が頑張っていることや難しいこと、生の声を聞いて良かった。

#### 座長

論点をまとめると、

- (1) 消防団員定数の総数をどうするか
- (2) 出場分団のエリアを広げるやり方
- (3) 分団部の統合である程度の人員を確保するのか
- (4) 引き続き掘り起こしを含め新入団員を確保する
- (5) 今後の消防団の定数の議論の仕方
- (6) 団員の教育、士気の問題

などがあげられる。

定数の考え方は、各分団、部で決めていくが、消防後援会の意見を聞きながら、地域の実状に応じて議論をしていくこととする。

## 4 協議集約

#### 座長

人口減少や人の意識が変わっていく中、消防組織は必要不可欠なものであり、何らかの手立てをしてナショナルミニマムな、誰一人取り残さない定数を作っていかなければならない。様々な意見が出ると思うが各分団ディスカッションの場を設けて、最終的に意見の集約を幹部会議でしていただきたい。



市長あいさつ



トークの様子